

2010 年度 森里海連環学実習 B「紀伊半島の森と里と海」

講師：フィールド科学教育研究センター
里地生態保全学分野 准教授 梅本信也

本実習は、紀伊半島南部に広がる古座川流域と串本湾岸域に展開する自然域と里域（里海、里地、里川、里池、里谷、里原、里山、里空）を対象に、フィールド調査の理論と実践的手法を体感させ、現地観察や聞き取り、各域から得られるサンプルのデータ分析に基づいて、地域連環の諸相について考究し、観光振興と環境保全を総合的に把握しながら、今後の地域適正化対策を検討する実習である。今回で 8 回目となった。2010 年度も引き続き、古座川最上流域に位置する北海道大学北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林と共催で、フィールド研・紀伊大島実験所を活動拠点とし、9 月 16 日（木）から 9 月 22 日（水）に開催された。北海道大学 1 回生 9 名（経済学部 1 名、工学部 1 名、農学部 4 名、水産学部 2 名、薬学部 1 名）、京都大学学生 6 名（工学部 1 名、農学部 3 名、理学部 2 名）が参加した。担当職員は北大側が、准教授 2 名、技術職員 1 名、TA1 名、京大フィールド研側が准教授 2 名、講師 1 名、助教 1 名であった。日程と実習内容は以下の通りである。

16 日（金）JR 紀勢線串本駅に 12 時 10 分に集合、北大マイクロバスに乗車、紀伊大島実験所に到着、12 時半から全体ガイダンスを行ない、「古座川合同調査報告集」や「地域フィールドガイド」など資料を配布、該当地域の諸相連環を考察する上で効果的で相互に関連する参考テーマを提供し、戦略的に課題に取り組むための仮の班分けを行った。

17 日（土）里域と自然域各系およびその相互連環性を把握し易いテーマを作成、それぞれの担当教員と共に実習・現地調査に入った。一部は北大和歌山研究林に向かい、それぞれで宿泊しながら取り組んだテーマは「古座川流域の衣食住文化要素における連環」「水生昆虫類から見た連環」「エビ類から見た連環」「ニホンミツバチから見た連環とその地域性」「ツーリズムと地域連環」であった。

18 日（土）～20 日（月）テーマ別に調査、分析、検証、作戦会議、議論を行った。なお、19 日午後には、古座川本流中流域の奇岩名勝・一枚岩河川敷にて全班合同で中間報告会を行った。

21 日（火）紀伊大島実験所で調査結果を分析し、仮報告書を作成、班ごとに調査内容の発表を行った。夕刻以降には森里海連環学的視座からの活発な質疑応答が展開された。北大側前任者の野田真人先生も参加された。

22 日（水）清掃や報告書・アンケート用紙を提出、記念撮影し、無事に解散した。なお、A4 で約 150 ページにもおよぶ各班の正式報告書は「古座川合同調査報告集第 5 巻」に掲載された。



古座川中流域に位置する一枚岩河川敷公園で行われた中間報告会（2010.9.19）



古座川中流域七川ダム直下の真砂地区における聞き取り調査風景（2009.9.20）